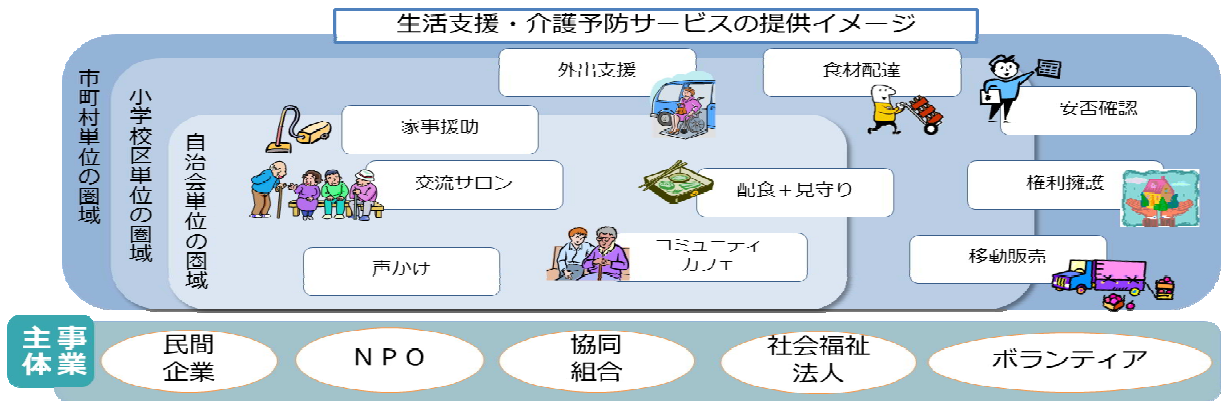


## 安曇野市生活支援体制整備事業の実施状況について (第1回安曇野市生活支援体制整備事業第1層協議体)

市では、第8期介護保険事業計画に基づき、地域包括ケアのより一層の推進に向けて、生活支援体制整備事業を実施しています。安曇野市介護保険等運営協議会は、この事業の市全域の課題等を検討・協議する場として、第1層協議体に位置付けられています。介護保険等運営協議会の開催に合わせて、事業計画及び事業報告を行います。

### 1 生活支援体制整備事業について

生活支援体制整備事業は、「生活支援コーディネーター（以下、コーディネーター）」と「協議体」の設置等を通じて、地域の支え合いによる生活支援・介護予防を広げ、地域で多様な主体によるサービス提供を推進していきます。



#### (1) 生活支援コーディネーター

地域において、生活支援等サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築の機能）を果たす者で、地域に出向き、地域の中でどんな活動や支え合いがあるのか、どんなことに困っているのかを把握し、サロン活動の活性化や新たな生活支援の体制づくりを担います。

#### (2) 協議体

地域におけるコーディネーターと生活支援等のサービス提供主体などが参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場としています。コーディネーターをバックアップするとともに、地域のさまざまな立場の方たち（区長、NPO 法人のメンバー、シルバー人材センター職員、地区社協役員、民生委員など）が一緒になって、支え合いの地域づくりに向けて協議をする場となっています。

#### (3) 第1層、第2層の圏域の考え方

- 第1層 市全域
- 第2層 日常生活圏域（豊科地域、穂高地域、三郷地域、堀金地域、明科地域）

#### (4) 安曇野市におけるコーディネーター及び協議体の配置

- 第1層コーディネーターとして、市職員1名を配置。(平成28年3月～)
- 第1層協議体は、安曇野市介護保険等運営協議会を充てて設置。(平成28年5月～)
- 第2層コーディネーターは、委託(※1)により各地域に1名ずつ配置。(平成28年4月～)
- 第2層協議体は、委託※により各地域に設置。(平成28年9月～)

※1 豊科地域：特定非営利活動法人 JA あづみくらしの助け合いネットワークあんしん、  
穂高、三郷、堀金、明科各地域：社会福祉法人 安曇野市社会福祉協議会

## 2 令和3年度生活支援体制整備事業報告

### (1) 第2層コーディネーターの取組

- 地域のサロン等へ出向くことや拠点で行う活動(地域学習会を含む)などを75回(※2)行うことにより、住民や関連団体へ生活支援や介護予防の必要性を伝えるとともに、それぞれの活動を支援し、助け合い・支え合い活動を広げました。
- 担い手の養成は、コロナ禍の中での工夫により、例年より参加者数が大幅に減少したものの、それぞれの拠点等で実施した事業で延べ309名※3が受講等し、その中で担い手支援につなげました。
- コロナの終息が見えない中、各地区で行うサロン活動をどう実施するか、また新規のサロン立ち上げについてなどの相談支援を76件※4行いました。

※2 あんしん11回、社協64回

※3 「あんしんセミナー」279名、「あんしんして暮らせる里づくり研修会」30名、「地域の世話焼きさん講座」「スキルアップ講座」「認知症サポーター養成講座」「福祉教室」等は、コロナ禍で開催を断念した。

※4 あんしん8件、社協68件

### (2) 第2層協議体の取組

- コロナ禍でも工夫をしながら協議体会議を開催※5し、地域の課題やこれから必要な資源について、意見交換や学習を行い、移動支援や支え合い事業など地域に必要な事業への取り組みを始めた地区もありました。また、地域課題の解消に向けた学習等を進めました。

※5 開催回数：豊科6回、穂高4回、三郷5回、堀金6回、明科6回

#### 【協議体構成団体・活動内容】

	豊科地域	穂高地域	三郷地域	堀金地域	明科地域
構成団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、シニアクラブ、区長会、包括など10団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、シニアクラブ、シルバー人材センター、包括など14団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、シニアクラブ、公民館、包括など13団体	支部社協、NPO法人、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、シニアクラブ、シルバー人材センター、公民館、身体障害者協会、各地区社協、包括など22団体	支部社協、民生児童委員、介護サービス事業者、ボランティア連絡協議会、シニアクラブ、シルバー人材センター、薬剤師会、包括など10団体

内容	「高齢者の移動支援」の課題に取り組む。移動支援に係るアンケート結果を踏まえての仕組みづくりを検討し、制度の立ち上げを図りました。	これまで実施してきた行政区の分析を踏まえ、支え合いの仕組みづくりを地区内で作りました。他にも同様の仕組みを始めたいという地区もあり検討を進めました。	コロナ禍でも住民がつながることのできる場の必要性を再認識し、「場づくり」を進め、お試しサロンを実施しながら、開設の検討を進めました。	小地域での支え合いの仕組みづくりに向けて全戸アンケートを実施し、地域課題を確認し、支え合いの仕組みを検討しました。	ワークショップからあがった課題である「居場所づくり」を進めるため、男性が参加しやすいサロンを実施しました。
----	--	--	--	---	---

### (3) 第1層コーディネーター・協議体の取り組み

- 市と第2層生活支援コーディネーターとの打ち合わせ会議を月1回行い、各圏域の実施状況を確認する中で、当事業における課題の検討や進捗状況を確認しました。
- 各コーディネーターの具体的な活動を周知するため、広報誌「ほほえみのわ」を年2回発行しました。
- 希望者に生活支援サービスガイドブックを配布し、地域の資源について周知を図りました。
- 第1層協議体を1回開催し、生活支援体制整備事業の取組状況の報告をしました。
- 各地域の協議体活動を推進するため、市民生児童委員協議会と連携し、各協議体委員向けの研修会をDVDでの講義視聴により開催しました。
  - ・開催時期：令和3年9月から11月
  - ・実施場所：各第2層協議体会議の場
  - ・参加人員：各第2層協議体委員
  - ・DVD演題：「コロナ禍及びこれからの地域福祉活動における民生児童委員の役割について」  
講師 松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授 尻無浜 博幸さん
- 支え合いの地域づくりに向けて、市区長会、市社会福祉協議会、市シニアクラブ連合会と共催で、市民向けの「地域支え合い推進フォーラム」をDVD視聴により開催しました。
  - ・開催時期：令和4年2月26日から当面の間
  - ・開催方法：市ホームページのサイトに動画を掲載し視聴 視聴数 283回
  - ・テーマ：地域共生社会の推進に向けて
  - ・内容
    - ☆基調講演 地域共生社会の実現に向けて  
～相談支援・参加支援・地域づくり支援で包括的な支援体制を～  
講師 社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 山崎 博之さん
    - ☆活動報告 「地域の足は地域でつくる」豊科 アルプス区  
「支え合い制度について」穂高 白金区

### 3 令和4年度生活支援体制整備事業活動計画

#### (1) 目標

- 第8期介護保険事業計画に基づき、地域の中で支え合いや助け合いによる生活支援や介護予防の取り組みをさらに充実させるため、地域福祉担当部門やまちづくり部門との連携を深め、地域ニーズの把握をし、既存資源とのマッチングをさらに進めます。
- 関連団体との情報共有・連携強化の場となる協議体活動は、区をはじめ、多様な団体とのつながりを深め、地域の中での取り組みを今後も進めます。

#### (2) 主な取組

- 行政区などでの懇談、学習会を行うことにより、地域での支え合いや助け合いの意識を広めます。
- 地域で生活支援や介護予防に関する活動をしている実践者（運営者）及び新たに活動を希望する方の相談・支援に応じ、地域の支え合い体制づくりを進めます。
- 高齢者のみならず、地域のあらゆる世代とのつながり・協働により、地域の多様な主体による支え合い体制づくりを支援します。関連する事業として、地域見守り活動の周知を図り、参加団体を増やします。
- 生活支援コーディネーターの認知度を高めるために、地域ごとに年2回広報紙を作成し地域で回覧します。
- 支え合いの地域づくりに向けた関連する事業は、庁内連携により、取組を進めます。
- 地域ごとの協議体活動を進めつつ、さらなる活動の推進に向けて第2層協議体の「研修会」を開催します。
- 市民への支え合いや助け合いの意識を深め、地域課題に取り組む活動をすすめるため、市内の実践者を交えた「地域支え合い推進フォーラム」を開催します。